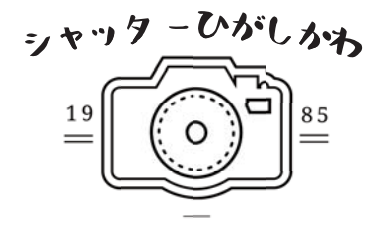


東川で「自分らしく」生きる。

東川町オフィシャルレポーター中川梨花による連載「ひがしかわな人、」。第4回目にご紹介するのは、2021年9月から地域おこし協力隊として税務定住課に勤務する宮本息吹さん。自分らしく生きる人が集う東川に惹かれ、移住を決断した宮本さんにお話をお聴きした。

今、東川に新たな「若い風」が吹き始めている。札幌出身で同志社大学を2021年春に卒業後、同年9月に移住してきた宮本さんは、移住相談会など東川への移住に関心層に向けてまじをPRする仕事を担っている。大学では、医療機器の研究を行っていた。しかし、就職活動の機に「なんか違うな」という



「ぎゅっ」



Photo by yuki

小さな手でぎゅっと握る。雪合戦かな？それとも小さな雪だるまを作るのかな？冬はたくさんの楽しみがあります。真っ白な雪は、私たち大人の心も癒してくれる。あ、雪かきは大変だけどね。子どもも大人もみんな大好きな冬を今年も思う存分楽しみたいです。9年ぶりにスキーにも挑戦しようかしら・・・

みなさまからの写真を随時募集中です！

- ✓年齢・経験などは問いません！
- ✓写真は、東川町内で撮影されたものなら何でもOK！（景色・人・食など）
- ✓撮影機材は何でもOK！（スマホでも）
- ✓タイトル、お名前（ペンネーム可）、コメント（140字以内）を添えてメールよりご応募をお願いします。

ご応募はコチラから！



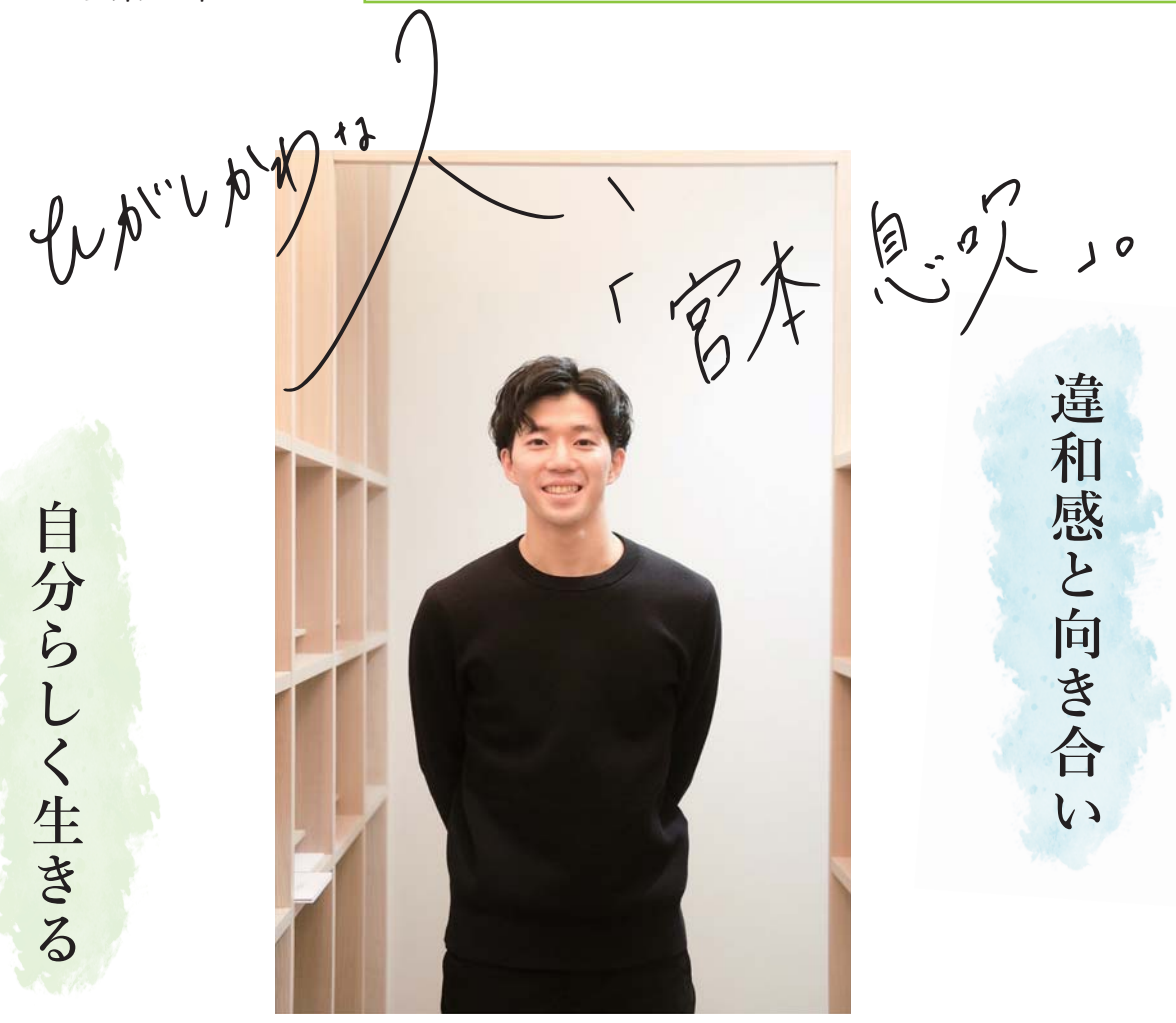
e-mail : shutter_higashikawa@gmail.com

みなさまの素敵なお写真に出会えることを心待ちにしております♪



東川町オフィシャルレポーター「中川梨花」の活動記録

今年の仕事はじめは、1月7日・8日に札幌で開催された移住フェアでした！移住関係のイベントに参加させていただくのは初めてでしたが、大学では「コロナ禍による若者の地方移住への関心の高まり」をテーマに研究していたので、非常に勉強になりました。様々なきっかけで東川を知り、興味を持ってくださる方が各地に多くいらっしゃることを実感し、私自身もオフィシャルレポーターとして魅力発信により努めたいと改めて強く思いました。



自分らしく生きる

違和感と向き合い

違和感を覚えたという。それは、「この学部に行つたからこの企業や業種を受けなければならぬ」という無意識に自分を縛つていたことに対する違和感だった。一度、就職という枠にとらわれず自分が真にやりたいことを探そうと思いついた。卒業後は、元から写真撮りながらの1人旅が趣味であったこともあり、1人で北海道1周の自分探しの旅に出た。その行動力の裏には、震災で船が欠航になり帰宅が困難となったときでもバイクとテントさえあればどこへでも行けることを実感した経験があるという。素直に心に従うことの大切さに気づいた瞬間だった。こうして、以前知人の紹介で一度訪ねてからいつか住んでみたいと思った移住を決断した。東川へ移住を決断したのは、『決して東川で自分らしく生きる人々に共通しているのは、決して楽ではなく険しい道だとしても覚悟を持っていること』ではないかという。今後は、移住相談会で町内の事業者さんとコラボした企画を運営し、自分がそうであったように「自らが信じる生き方を実現しよう」としている方に東川を訪れてほしい」と力強く語る。